RECOVERY

ISLAND OKINAWA

リカバリーアイランド沖縄

Vol. 34

PLEASE
TAKE IT FREE
ご自由に
お持ち帰りください
無料

「今、メンタルヘルスの支援者として見えていること」

認定NPO法人
リカバリーサポートネットワーク代表理事
西村 直之

「ガイア体験記」

川崎ダルク コージープレイス施設長
山田 きよみ

Photo by Takkaja.com

謹賀新年

琉球GAIA

「それぞれの居場所で
回復を目指す」
琉球GAIA 代表理事
鈴木 文一

「ガイア体験記」
川崎ダルク コージープレイス施設長
山田 きよみ

依存症治療最前線

「今、メンタルヘルスの
支援者として見えていること」
認定NPO法人
リカバリーサポートネットワーク代表理事
西村 直之

TEAM.START

RECOVERY
ISLAND OKINAWA

リカバリーアイランド沖縄は、
依存症から回復したいと願う人たちに、
希望のメッセージと様々な選択肢で、
「あなた」を応援する季刊誌です。

Photo by Takkgia.com

表紙「緋寒桜」

沖縄では12月下旬から桜が咲き始め、1月には日本一早い桜祭りが各地で開催されています。沖縄の桜といえばソメイヨシノではなく緋寒桜(ヒカンザクラ)が一般的です。緋寒桜は散りにくく多少の風雨では負けることはありません。ソメイヨシノの儚い美しさとはまたちがった力強い美しさがあります。

謹んで新年お祝い申し上げます。

旧年中はご厚情を賜り、ありがとうございました。昨年は新型コロナウィルスの感染拡大の影響もあり琉球ガイアでの活動も制限を受けることもありましたが、利用者、スタッフ共に感染者を出さずに無事一年を過ごすことができました。また、しばらくの間、活動を中止していた東京家族会、関西地区家族会は年末から何とか活動を再開出来ています。久しぶりにご家族のお顔を拝見し、私自身喜びを感じています。今年も利用者により良いサービス提供を目指しスタッフ一同取り組んでいく所存でございますので、変わらぬご指導お鞭撻の程よろしくお願いします。

最近の琉球ＧＡＩＡは回復に前向きな利用者が多く、認知行動療法や12ステップに積極的に取り組んでいます。各プログラムやボランティア活動にも前向きで「必ず回復する」という意気込みを強く感じ、施設内も良い雰囲気に包まれています。そのような中、仲間の中に新しい風を吹き込み良い刺激を与えたいというスタッフの思いから、ゲストとして川崎ダルク女性専用施設「コージープレイス」施設長の山田きよみさんをお招きし、ＧＡＩＡ女性ハウスに泊まってもらいながらミーティングやプログラムに参加してもらいました。

山田さんとは30年程前に横浜ダルクでお会いした以来のお付き合いです。久しぶりに再会し当時の懐かしい思い出を語り合うことができました。これまでもセミナーや施設の各種イベントに参加した際には懐かしい仲間と再会し当時の思い出や現状を語り合うことで「みんな色々あるけど頑張っているな」と力を貰うことができました。これは私が琉球ガイアやＳＴＡＲＴでの活動を続けていく原動力にもなっています。

それぞれの居場所で回復を目指す

鈴木 文一

自立訓練（生活訓練）事業所
START代表
琉球GAIA代表理事

法務省那覇保護観察所 保護司
沖縄県薬物乱用防止協会 理事

山田さんとの会話では「如何に私たちの回復にとって良かったことや役だったことを利用者に提供できるか」が話題になりました。それは「多くの回復者と出会い、希望を持てる」こと、つまり孤立を解消し前向きになれるということです。その上でその人に合ったきめ細やかなサービスをいかに提供できるかが共通の課題でした。

同じように今回ご寄稿していただいた西村　直之先生との付き合いも古く、私が東京ダルク施設長だった頃までさかのぼります。当時の横浜ダルク施設長の大木さんが福岡にダルクを開設するということで私もお手伝いをすることとなり、その時に初めて西村先生に出会いました。西村先生はその頃から仲間の中に積極的に参加し色々なサポートをしてくれています。今は共に沖縄で活動をしていますが機会あるたびに色々と相談に乗って頂いている先生です。

またリカバリーサポートネットワークで開催される「依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会」でもお世話になっており、参加したＧＡＩＡスタッフも様々な立場の専門家から知識と刺激をいただきありがたく思っています。多くの肩書を持つようになった先生ですが、常に苦しんでいる仲間に寄り添い、私たちと同じ目線になってアドバイスをしてくれる稀有な存在です。

今回お二人の原稿を読み返しながら、当時のことを思い出すと改めて「居場所」の大切さを再確認しました。山田さんの言う「安全な場所でたくさん失敗をすることが大切」、西村先生の「死を選ぶくらいなら、酒を飲んでもいいし、薬を使ってもいい。そこから何度でもやり直せばいい」。私自身、この季刊誌で「安心できる居場所」について何度か述べましたが、お二人の言葉には大変勇気をもらいました。

依存症からの回復には再発・再使用も起きますが、その際に「安心して、話せて、共感してもらえる居場所」を確保できていることはとても大切なことです。それは自助グループ、回復施設、地域の医療機関など人それぞれでしょう。そこに居場所を持ちながら七転び八起きしながらでもそれぞれのゴールを目指す。その経験を糧に新しい仲間へのサポートをしていく中で自己有用感を育む。このサイクルは私自身の経験からも大変有効だと考えています。

幸い琉球ＧＡＩＡには近隣に住むＯＢや地元に戻ったＯＢたちが定期的に訪れてサポートしてくれます。彼らも以前は苦しんだ本人たちですが、今は落ち着いた生活を取り戻しています。彼らがメッセージを新しい仲間に伝えることが良い刺激になっているようで、現在のＧＡＩＡの良い雰囲気に繋がっているのでしょう。

最後に西村先生の原稿の終盤に「伴走者」とありますが、私が常々意識していることであり、琉球ＧＡＩＡやＳＴＡＲＴのスタッフにも意識してほしい言葉です。ともすれば「指導者」や「指示者」の立場になりがちですが、「伴走者」であることを意識し、その人に合ったゴールを目指し、寄り添いながらサポートできるよう心がけたいと思います。

琉球GAIA　スタッフから　新年のあいさつ

TEAM.START

草野 卓也　琉球GAIA施設長

明けましておめでとうございます。本年も感謝の気持ちを忘れずに、全力で仲間のサポートに取り組んでまいります。今年もよろしくお願いします。

斉木 一平　琉球GAIAスタッフ

新年明けましておめでとうございます。本年も仲間と一緒に依存症からの回復を楽しみ、メッセージを伝えられるよう日々精進していく所存です。今年もよろしくお願いします。

吉田 謙治　STARTスタッフ

新年明けましておめでとうございます。STARTが開所してから約4年が経ちます。本年も更なるサービス向上のために気持ちも新たに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

安達 将智　STARTスタッフ

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍で迎える2度目の新年ですが、ようやく落ち着く気配も見えてまいりました。仲間と共に平穏で実り多い一年にしたいと思います。今年もよろしくお願いします。

島形 麻美　STARTスタッフ

明けましておめでとうございます。10月より女性ハウスをサポートさせて頂くことになりました。女性が安心できるような環境作りを目指したいと思います。今後ともよろしくお願いします。

与那嶺 卓　STARTスタッフ

明けましておめでとうございます。今年も仲間やその家族へのより良いサポートをめざし頑張ります。今年もよろしくお願いします。

ガイア体験記

山田 きよみ
社会福祉士
川崎ダルク　コージープレイス施設長

こんにちは。普段は川崎ダルクの女性通所施設（コージープレイス）というところでスタッフをしている山田と申します。

ガイアの文一さんとの出会いは30年近く前になります。とはいえ、私自身は薬物使用が止まらない時期で、ほとんど記憶にありません（笑）

11月に琉球ガイアに呼んでいただき、自身の体験談を話し、その他にもミーティングや食事を共にし、皆さんと3日間過ごしました。

今回、私のわがままで女性の入寮施設に泊めてもらい、（女性同士で色々あるのかな…）（いきなり他人が来たら嫌がられるのかな…）と入寮するのにも似たような多少の不安もありながら行ったのですが、突然のお願いにも関わらず、海の見える静かな住宅地にある綺麗なハウスでスタッフの麻美さんや入寮している女性メンバーの皆さんがとても親切にしてくれ、楽しく3日間過ごすことができました。ガイアで感じたことは自主的に動くメンバーの多さと一人ひとりに合わせたそれぞれのプログラムやルールがあり、きめ細やかな対応をスタッフが行っていることでした。

自分の望むことをやれたり、ルールが少ないと一見楽に感じるかもしれませんが、自分で考え、決断し行動することは、なかなか大変なことです。それはルールの少ない通所施設でスタッフをしているのでとてもよくわかります。

私自身、施設に上手く繋がれず自助グループで薬が止まったので自由の中で薬をやめ続けるつらさも、まわり道のような経験もしてきました。

ルールが少ないと気持ちの揺らぎも多く、その揺らぎと少しずつ向き合いながら自分自身の足で歩くことを目指すのですが、それに寄り添うスタッフや仲間達、時に自分自身も変わらない無力感を感じることもあるかと思います。でも揺らぎを仲間と共に過ごし、歩いていけるようになると良い方向に向かえるようになり、薬をやめ続けるなかで苦しいことや辛いことが起きた時にも自分を助けてくれる力になります。

そんな揺らぎのなかをガイアのスタッフや仲間達のさりげなくかける声や姿で見えない努力や気配りがたくさんあることを感じ、私自身の励みにもなりました。

川崎ダルクは２００４年に、女性施設は通所施設として２０１４年に設立され、私はその設立準備の話し合いに参加し、少し手伝うつもりが、気が付いたら7年の月日が経っていました。ダルクでの経験もほとんどないまま、ダルクスタッフとなり、最初の頃は利用者に合わせるわけではなく施設に合わせて話をしていたように思います。当時は私ともう一人の女性スタッフの二人だけで、しかも二人とも子育て中、さらに週末は施設はお休み。入寮施設と違い自由度の高い通所施設なのでスマホは持っている。施設に行く、行かないも本人次第・・・

薬を止めていくのにはなかなかハードな環境だと思います。

そんな環境なのでだんだんと施設ではなく人に合わせたプログラムを考えていくようになりました。依存症で壊れた価値観や本来持っている生き辛さを抱えたままだと、失敗と感じるような行動も多くあります。でも失敗しないようにするのではなく、安全な場所でたくさんの失敗をすることが大切で、仲間に受け入れてもらえた経験をたくさんして欲しいと思うようになりました。

真面目なことばかり書いてしまいましたが、今回、ガイアで別人に写る「盛りアプリ」を教わって一緒に撮ったり、行く先々で変なポーズして写真撮ったり、食事会の帰り、就労している仲間の車に乗せてもらってお喋りしたり・・・そんな時間が楽しかったです。

私自身、施設にいると迷いも多く、本当にこれで良いのだろうかと落ち込むことも多くありますが、今回ガイアに行かせていただき、ガイアで過ごす仲間たちのなかでとても癒されたように感じています。

文一さんとも懐かしい話から仕事や子育てのこと色々と話ができて、今度は覚えていられそうです（笑）

ガイアの皆さん、呼んでくれてありがとうございました。

山田さん（中央左）と琉球GAIAスタッフ

ホームページも見てね。
川崎ダルクイメージキャラクター
ドラビット

川崎ダルク女性専用施設　コージープレイス

2014年に女性専用施設コージープレイスは開設され、より多くの依存症者に支援ができるようになりました。女性は身体的、生活上でも男性とは回復の道のりが違います。その様々な支援ニーズに対応すべく女性専用の通所施設として誕生しました。
コージープレイスとは"居心地のいい居場所"という意味合いを持って名付けられました。
この場所から一緒に依存症からの回復を始めませんか。

044-789-8370（担当：山田、中川）
受付時間：AM10:00~PM16:00

今、メンタルヘルスの支援者として見えていること

30年以上精神科医療に従事していますが、医師になってしばらくした頃、アルコール・薬物依存問題との関わりを機に、病院での診療という枠組みを踏み外して、二足も三足も草鞋を履いて今日に至っています。いつの間にかたくさんの役職や肩書がついてしまいましたが、私自身のアイデンティティは、「暮らしの支援メンタルヘルス部門担当者」と実にシンプルなものです。これまで色々な角度から暮らしの支援の可能性を探してきた経験から気づいたことを、書いてみたいと思います。

回復支援との出会いと臨床的回復の呪縛

薬物療法も治療プログラムも前時代的な状態であった平成の初めに、アルコール依存症治療病棟に急遽派遣され、最初に直面したのは、医療の限界でした。解毒や離脱管理、酒害教育（笑）の手伝いぐらいで、治療らしいことは何もできませんでした。

一方で、断酒会やＡＡなどの相互援助グループや治療の経過のなかでの重要な人との出会いが、問題を抱えた人を大きく変えていくことを目にし、人が人を回復に導くというケアの原点を学びました。

その後、薬物依存の人たちとの回復支援に軸を移し、ますます治療困難な状況に自分を追い込むことになったのですが、その経験で、深刻な依存問題の背景には、薬物を使用する前から抱えている様々な課題が存在していることに気付くことができました。「薬物依存症」という病名で、薬物に依存している人を一括りにすることに強い疑問を感じ、自分の頭の中にある「依存症」という安易な思い込みを壊していきました。“薬物を必要としている人は、悪人でも、犯罪者でもなく、支援を必要とする人です”という偏見やスティグマを解消していくために用いられた「薬物依存は病気です」という啓発にも疑問を持ちました。精神疾患としての病名がつくことは、犯罪者とされるよりは良いかもしれませんし、救済につながる可能性も多々あるのですが、精神障害者というラベル自体も、また社会ではスティグマでしかなかったからです。最近は、薬物依存の人は、病気だから治療すべきだ（治療するのは良いことだ）、治療によって再犯を防止すべきだ（再犯の防止が出来るのは良いことだ）というような、歪んだ治療幻想が依存症に関係する業界内に広がっているように感じ、かなり息苦しくなっています。

人は、馬鹿な行為とわかっていてもそれを必要とする時があります。その苦しい時期を乗り切り、自身の下手くそな対処手段をより健康なものにアップデートしたり手放せたりするようになるまでには、たくさんの出会いと旅、そして何よりも“時”が必要です。背負った荷物があまりにも重い時には、最後まで手放せずに、一生を終える方も少なくありません。援助職者の役割は、その時が来るまで、できるだけその人が負う可能性がある危険を減らすように配慮しながら、失敗に付き合い続けていくことだと思っています。

精神医学的な症状や問題行動や再犯がなくなり社会が望む望ましい形に収まる、または自分自身が収められるようになることは、悪いことではありません。このような社会一般や支援者が望ましいと思う形に変化していくことは「臨床的回復（Clinical Recovery）」と呼ばれます。依存症の治療や回復支援、司法による矯正教育や再犯防止は、臨床的回復に重点が置かれやすくなります。支援が公的であればあるほど、その領域で暗黙として臨床的回復が目標であり、“正しい”支援とされます。

しかし、実際にひとりひとりの抱えている苦痛や苦悩に向き合っていくなかで、臨床的回復の度量の狭さ、正しさの押し付けにうんざりし、窮屈に感じることがあまりにも多くなっていきました。私の支援の基本は「死ぬな」「生き急ぐな」です。思うようにいかず、絶望し死を選ぶぐらいなら、酒を飲んでもいいし、薬を使ってもいい。そこから何度でもやり直せばいい。しかし、実際の支援現場は失敗にそれほど寛容ではなく、当事者は追い詰められていきがちです。援助の正しい回復、あるべき回復や回復支援という呪縛の世界から、私自身をまず解放する必要がありました。

パチンコの依存対策との出会いと個人的回復への視点

依存症専門の医療機関から離れて、採算を度外視してかなり自由な診療ができるクリニックに勤務（しかも週に二日）するようになり、「依存症治療」の看板や正しい回復支援の呪縛から、徐々に解放されていきました。似たような問題に直面していても、ひとりひとりその背景が違い、必要とする支援が異なること、その人が内に持つ回復力を信じて、粘り強く見守り続けること、自分の理想像は自己満足に過ぎず診療の邪魔になることなど、単純明快で大切な原則が出来上がり、その原則を守ることで、病ではなく、人が見えてきたように思えます。そのような中で、２００５年からパチンコホール組合の依存問題対策に協力することになりました。業界側からの依頼ではありましたが、世界が全く異なる特殊な業界の、しかもあまり触れられたくない部分に外の人間がいきなり踏み込んだのですから、アウェイ感は半端なく、色々な障壁を乗り越えていく鍛錬の日々が始まりました。

今も気苦労は絶えませんが、医療と一線を画し、税金や補助金などの公的な資金を一切使わず、事業者自身が問題対策を行っていく新たな形を作っていくことで多くのことを学ぶことができています。高藤を恐れずに、対話を続ければメンタルヘルスケアの裾野は広げられること、医療や福祉の思い込みが本当に必要な支援を阻害していること、行動習慣の問題を抱える人たちの多くが公式な支援を使わずに自己修正していること、医療ケアを必要とする人たちは、嗜癖問題全体からみれ

西村　直之
精神科医
認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク代表理事
一般社団法人日本SRG協議会代表理事

診療と並行し、薬物やギャンブルに問題がある人の当事者活動の支援、日本におけるRG（責任あるゲーミング/ギャンブリング）の推進に取り組んでいる。大阪府・市ギャンブル等依存症対策検討会常任委員。公立諏訪東京理科大学客員教授、龍谷大学矯正・保護総合研究センター研究員などを兼任。

依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会 in 沖縄

依存の問題にかかわる支援者と共に学ぶ勉強会を開催しています。「〇〇依存症にはこのプログラム」ではなく、依存問題を抱える人一人ひとりを個別的に理解するよう努力し、生活支援、環境調整、人生支援の視点から支援を考える、「人」を中心とした「生活モデル」の勉強会です。支援の困難さなども本音で語り合います。生活にかかわるさまざまな職種が集まって、人間理解を深め、援助技術の向上を目指し、「人」を中心とした支援の哲学を共有する支援者の輪を拡げていくことが目的です。

開催協力・場所　：リカバリーサポート・ネットワーク
日時　　：毎月第2土曜日　10:00～11:00
（月によって開催日が変わる場合があります。リカバリーサポート・ネットワークのHPでご確認ください。現在は、新型コロナ感染対策のためZOOMにて開催中）

ばかなり少ないといこと、軽度の段階での多様な介入が、結局重度の人たちのケア・問題解決支援に有効に働くこと（予防のパラドックス）、行動習慣の改善や問題解決には、その背景問題の理解やケアと福祉的支援が必須であること、そして回復への道や形、ゴールはひとりひとり異なり、実に多様であること、そしてこのことは別に嗜癖問題に限らないこと、このような事が一つ一つしっくりと入ってきました。

誰かに設定された回復ではなく、病や困難、課題も含めてその人の経験などが統合され、人生の意義ある糧となっていく過程を「個人的回復（Personal Recovery）」と呼びます。個人的回復に役立つことは、無限にあります。そして、個人的回復の支援者は、治療者ではなく、回復に役立つ無限の出会いの旅を支えるイネーブラーであり、伴走者です。医者としては治療者であらねばならない束縛から完全に開放されることは無理ですが、個人的回復の途上の人たちがより多様な形で、様々な出会いを重ね、自分なりに試行錯誤を続けていくことを支える応援団の育成を「暮らしの支援メンタルヘルス部門担当者」として医療の外では個人的に続け、ようやくその価値を実感できるようになってきています。

これは、病院という箱から踏み出したことへのご褒美なのでしょう。

近年は専門・分業化がメンタルヘルスの領域でも進んでいます。様々な肩書を持った人たちが増えれば増えるほど、縦割りの弊害と、自称専門家の治療幻想の肥大、そして、専門家への紹介という厄介払いも増えているように思います。個人的回復には、専門家よりも、暮らしの中で出会う人たちからの尊厳ある受容と理解、そして適度な支えと見守りこそが重要だと感じています。臨床的回復と個人的回復、この違いを支援者のかたは、意識されてみてはどうでしょうか？

ご褒美が貰えるかもしれません。

パチンコは、適度に楽しむ遊びです。

パチンコ・パチスロ依存は、誰にでも起こりうる問題です。

ひとりで悩まず、お電話ください。

もし、ひとつでも当てはまるなら、あなたの遊技は、もう“適度”を超えてしまっているかもしれません。

- パチンコをするためにウソをついた
- 使ってはいけないお金を、使ってしまった
- 負けを取り返そうとして、途中で止められなくなった
- やり始めると、時間や金額が分からなくなってしまう
- パチンコをするために、お金を借りた
- パチンコが原因で、大切な人とケンカになった

相談窓口

050-3541-6420

月～金（土日祝日除く）10:00～22:00（受付は21:30まで）

ホームページ

http://rsn-sakura.jp/

ぱちんこ依存問題相談機関

認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

リカバリーサポート・ネットワークは、ぱちんこ依存問題からの回復を支援する非営利相談機関です。電話による無料相談を行っています。相談は匿名でお受けしています。当団体の活動は、パチンコ・パチスロ産業21世紀会の支援、会費、寄付によって支えられています。

※パチンコ・パチスロ産業21世紀会（加盟13団体）

全日本遊技事業協同組合連合会、一般社団法人日本遊技関連事業協会、日本遊技機工業組合、日本電動式遊技機工業協同組合、全国遊技機商業協同組合連合会、回胴式遊技機商業協同組合、一般社団法人遊技場自動サービス機工業会、遊技場自動補給装置工業組合、遊技場メダル自動補給装置工業会、一般社団法人MIRAIぱちんこ産業連盟、一般社団法人余暇環境整備推進協議会、一般社団法人電子認証システム協議会、一般社団法人プリペイドシステム協会

（2021年5月現在）

特定非営利活動法人

リカバリーサポート・ネットワーク

リカバリーサポート・ネットワークは、パチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的に設立された非営利の相談機関です。全国から沖縄県内の事務所で年間4000件の相談に対応しています。お悩みの方本人やその家族を対象に無料で電話相談を実施しています。

（通話料のみ自己負担になります。）

琉球ＧＡＩＡ　家族支援プログラム

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています。私たち琉球GAIAでは「家族と共に回復する」という理念のもと、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。
依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事、ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションを行えるようになる事、依存症は回復出来るという事をご家族が信じられる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンであり、他の援助者や、治療機関と連携が取れている事も大切にしている事の一つです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

また、グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も大切です。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

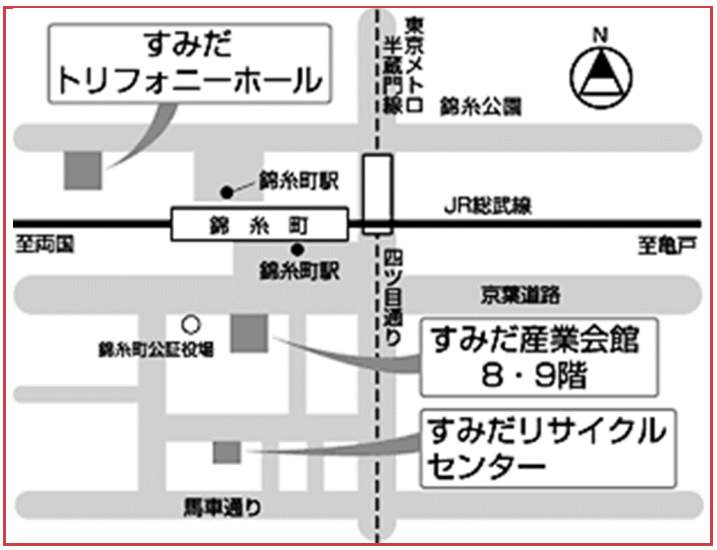
下記の家族会にはどなたでもご出席頂けますので是非ご参加ください。

昨年末より各家族会は再開していますが、新型コロナウィルスの感染状況によっては再度中止することも予想されます。中止の際にはメールやホームページ等でお知らせいたします。

address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館9階
〒130-0022　東京都墨田区江東橋3-9-10　TEL:03(3635)4351
東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

map



information

GAIA家族会 TOKYO

依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えてのセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館
毎月第2土曜日　18時～20時00分
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。
琉球GAIA：098-831-2174

ハイビスカス TOKYO

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？
場所：東京都港区芝5-18-2　障害者福祉会館
日時：毎月第1土曜日（祝祭日は休み）
　　17時～20時30分（無料）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

沖縄家族会 OKINAWA

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県豊見城市真玉橋135　NPKビル2階
　　生活訓練事業所「START」
日時：毎週月曜日（祝祭日は休み）
　　19時～20時（資料・場所代1,000円）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

大阪家族会 OSAKA

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。元琉球GAIAスタッフを中心として、毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13
　　美容院ルーナロッサビル3F
日時：毎月第2月曜日　17:00～18:30

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

琉球GAIAの活動にご賛同、ご支援頂きますれば誠にお手数ですが同封しております振込依頼用紙にてお振込み下さるようお願い申し上げます。なお誠に勝手ながら、献金の振込依頼用紙はすべての方に同封させて頂いています。寄付献金を強要しているものではございませんのでご了承ください。

一緒に、考えよう

依存症

のこと。

依存症は回復できます。

RECOVERY
ISLAND OKINAWA

2022年 1月発行
発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症
リハビリセンター琉球GAIA
〒900-0024 沖縄県那覇市古波蔵1-18-37
TEL:098-831-2174　FAX:098-831-7174
MAIL:mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター琉球GAIA

【GAIA東日本相談センター】
☎ 03-5800-5121

【GAIA西日本相談センター】
☎ 06-6433-5111

【沖縄ケアセンター琉球GAIA】
☎ 098-851-3535

フリーペーパー(無料)です、ご自由にお持ち帰りください。